那須岳の火山活動解説資料（令和５年２月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１、図２、図３－１①②、図３－２、図４－①）

湯本ツムジケ平監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南東約５km）及び日の出平北監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南西約 0.8km）による観測では、茶臼岳の噴気は 100m 以下で推移しました。

・地震や微動の発生状況（図３－１③、図４－②、図５）

那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源は、主に茶臼岳付近の浅いところから深さ１km 付近に分布しました。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図４－③～⑦、図６）

GNSS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

図１　那須岳　茶臼岳の状況（２月22日、湯本ツムジケ平監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）
次回の火山活動解説資料（令和５年３月分）は令和５年４月 10 日に発表する予定です。
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html
資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000(行政界・海岸線)』『電子地形図（タイル)』を使用しています。

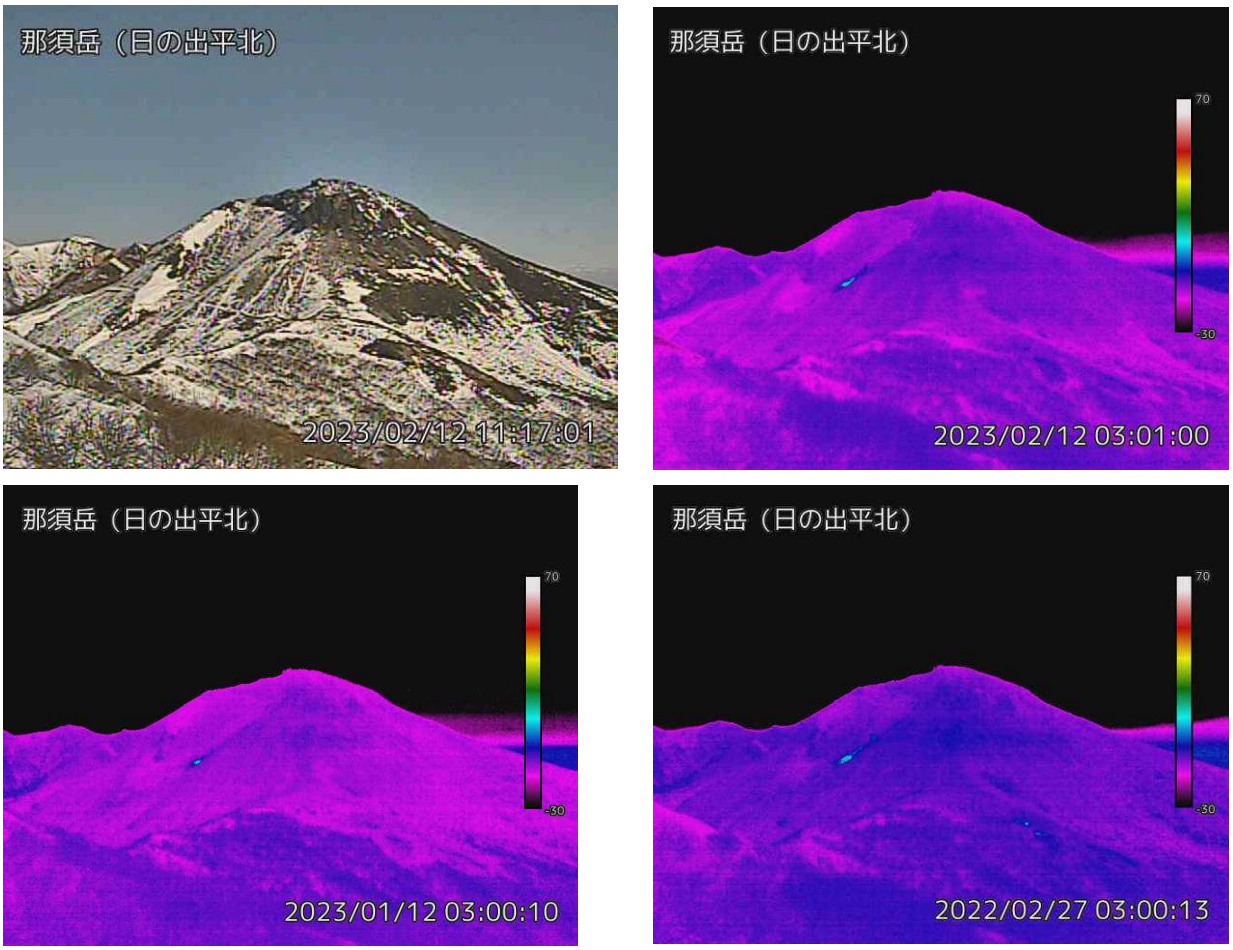


図２　那須岳　茶臼岳の西側斜面の可視画像と地表面温度分布（日の出平北監視カメラによる）

・噴気地帯に対応している場所で引き続き高温部分が認められます。
・前月（左下図）及び前年（右下図）と比較して、地表面温度分布に特段の変化は認められません。

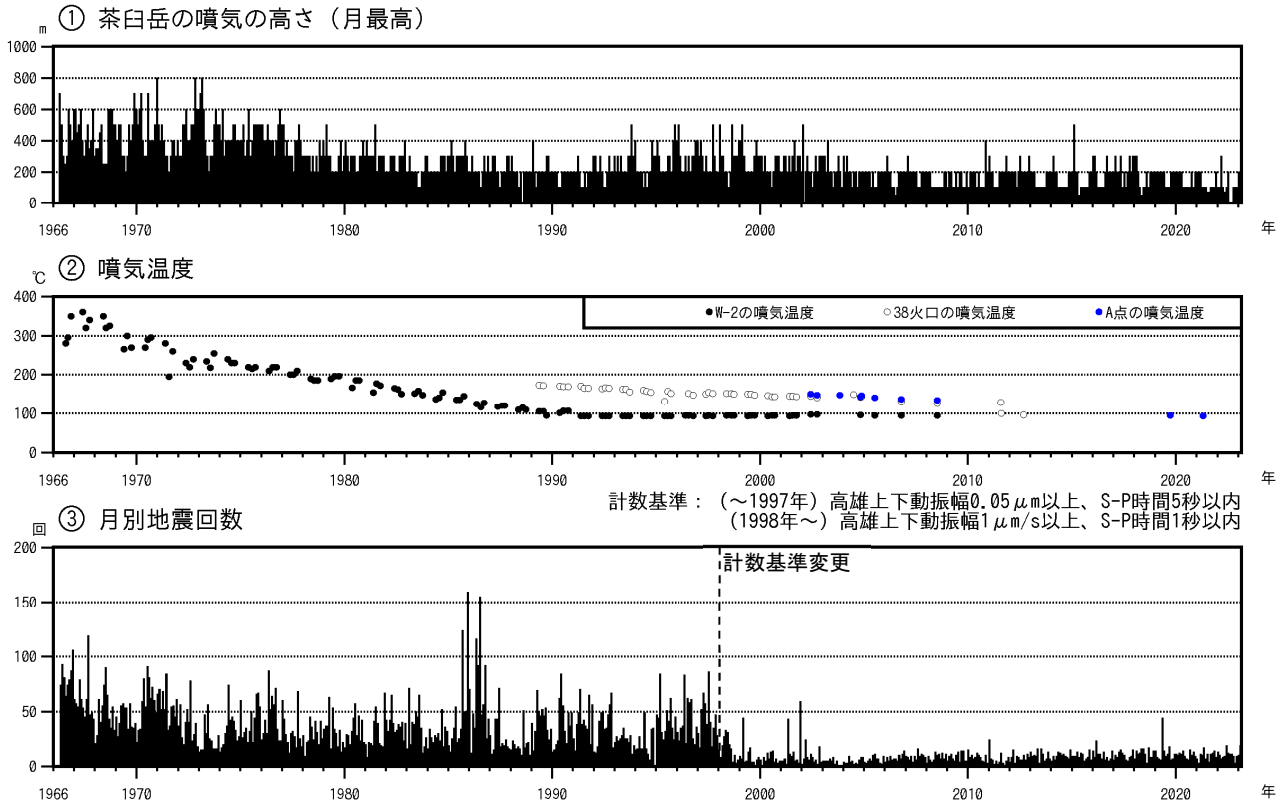


図３－１　那須岳　火山活動経過図（1966 年５月～2023 年２月）

① 2002 年２月以前は、定時観測（09 時・15 時）による月最大値
② 噴気温度の W-2、38 火口及び A 点はいずれも茶臼岳西側斜面の温度観測定点（図３－２）
③ 月別地震回数（～1997 年：那須岳周辺の地震を含む、1998 年～：那須岳山体付近の地震のみ計数）

・噴気活動、地震活動は低調に経過しました。

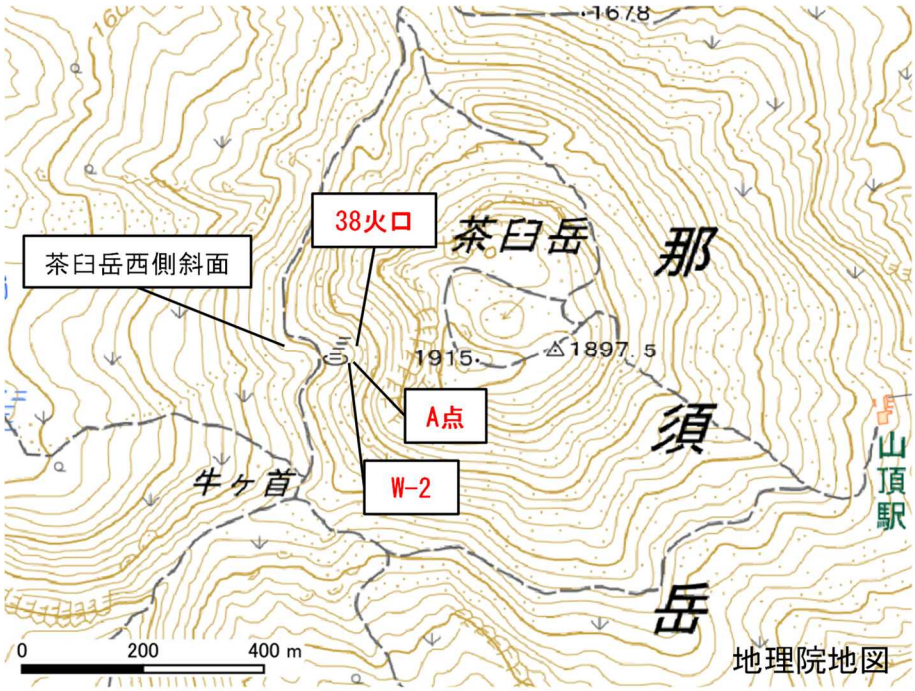


図３－２　那須岳　火口周辺図

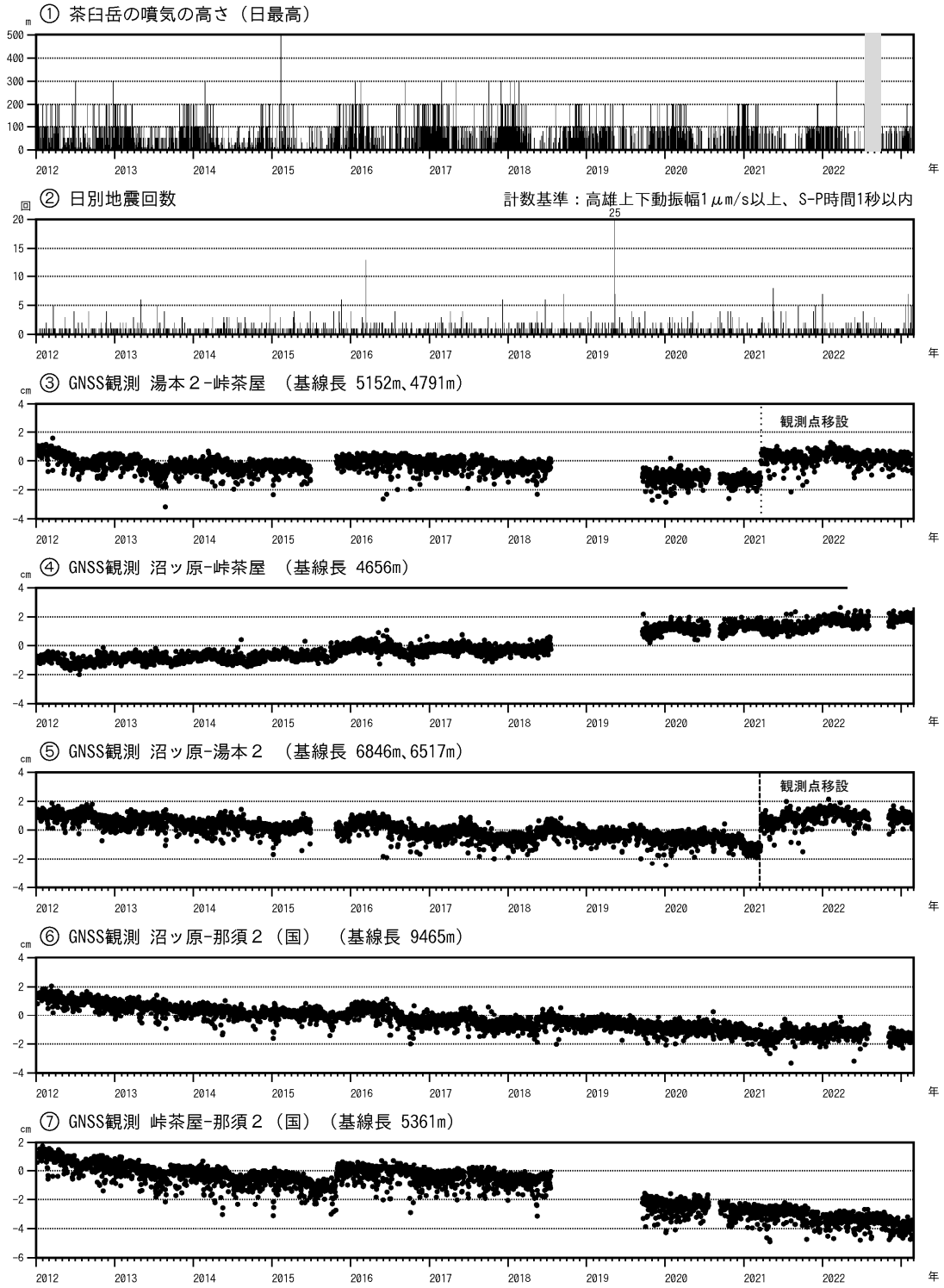


図４　那須岳　火山活動経過図（2012 年１月１日～2023 年２月 28 日）

①　　湯本ツムジケ平監視カメラによる観測結果を示しています。灰色部分は欠測を示します。

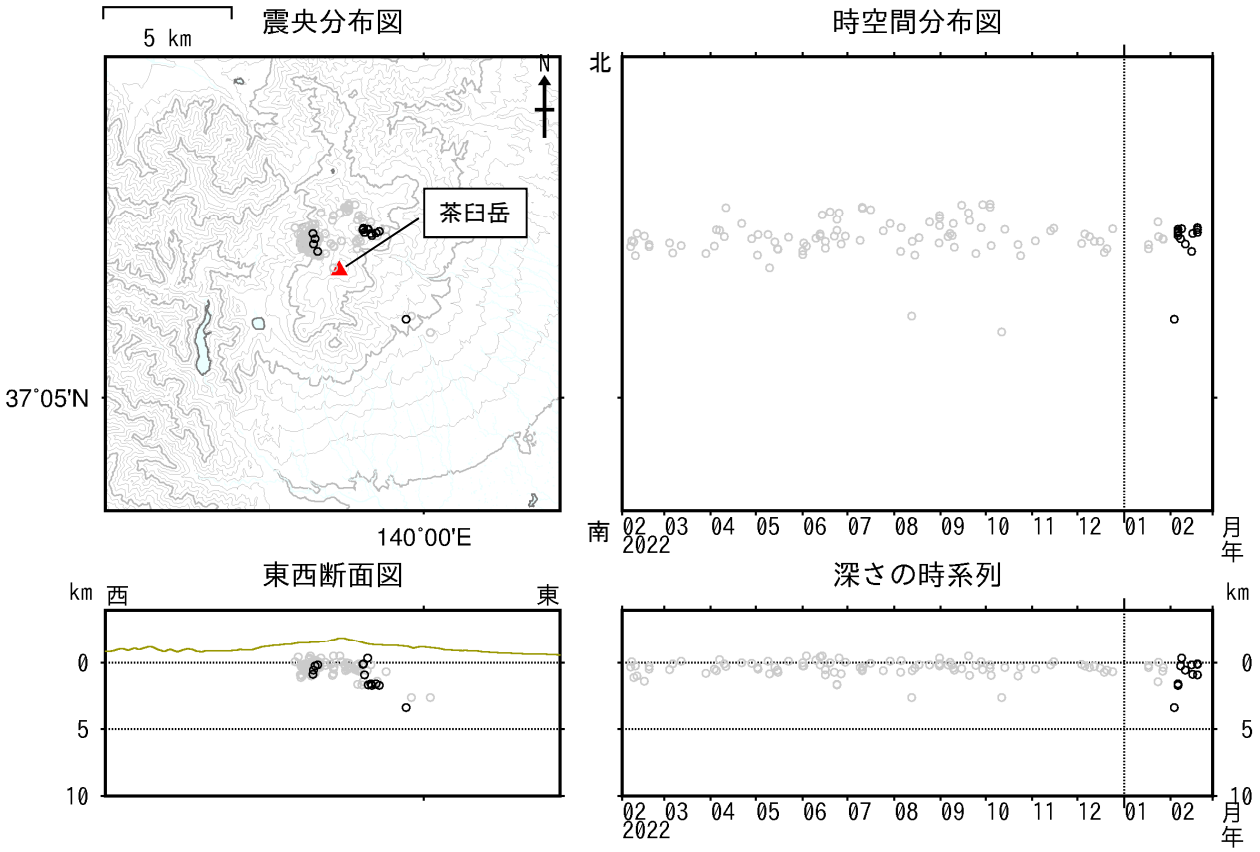
③～⑦　GNSS 連続観測による基線長変化を示しており、図６の GNSS 基線③～⑦に対応しています。
2016 年１月以降のデータについては、解析方法を変更しています。空白部分は欠測を示します。

③⑤　湯本２観測点は、2021 年３月 23 日に観測点移設を行いました。

③④⑦　峠茶屋観測点は、2019 年９月９日に機器更新をしています。

⑤　　基線長変化にみられる夏季の変化は、気象等の要因と考えられます。

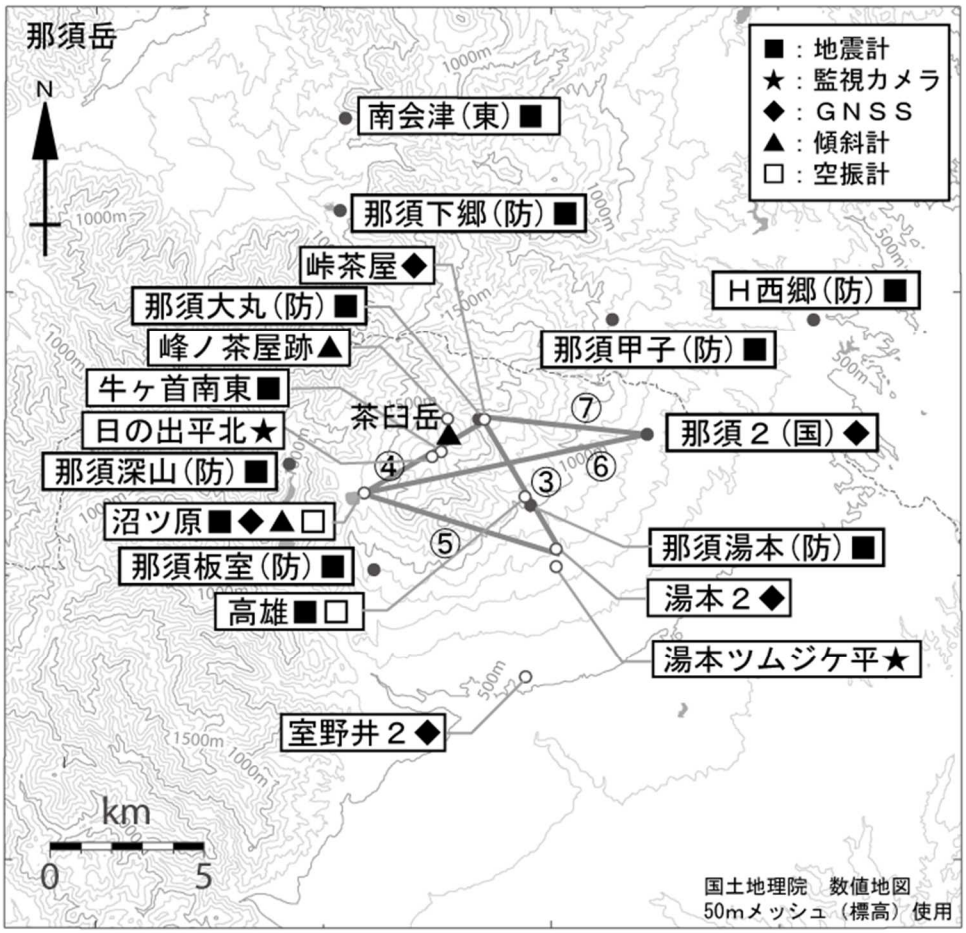
・噴気活動、地震活動は低調で、GNSS 連続観測でも火山活動によるとみられる変動は認められません。



○：2022 年２月１日～2023 年１月 31 日　●：2023 年２月１日～２月 28 日

図５　那須岳　震源分布図（2022 年２月１日～2023 年２月 28 日）

・那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。
・震源は、主に茶臼岳付近の浅いところから深さ１km 付近に分布しました。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所、（東）：東北大学

図６　那須岳　観測点配置図

GNSS 基線③～⑦は図４の③～⑦に対応しています。